

ひと☆人

子どもの頃からの夢

吉岡町で現実に

み み ふ あーむ
MIMI FARM

代表

あきやま
秋山

みゆき

幸希 さん



インタビューの秋山議員・小林議員と

Qご出身は東京都内とお聞きしましたが、就農するようになったきっかけをお聞かせください。

A出身は東京都の世田谷で、農業とは全く無縁の環境でしたが、小さな頃から植物に興味がありました。農業は大変、後継者不足が大きな課題、などの話を見聞きしているうちに、逆に農業への興味はどんどん大きくなり、都内の農業系の高校に進学しました。

Q高校卒業後はどうされたのでしょうか。

Aいくつかの進学先を私なりに調べてみたのですが、自然災害の少なさや実家からの距離など



自分の舌で確かめて作る
こだわりのイチゴ

を考慮し、群馬県立農林大学校への進学を選択しました。大学では2年間イチゴ栽培を学び、卒業後は高崎市内のイチゴ農家さんに雇用就農という形で就職し、3年半イチゴ栽培の現場を経験しました。令和7年9月に独立し、吉岡

町の小倉で現在に至っています。イチゴ栽培(やよいひめ)の時期的にはやや出遅れてしまった部分もありましたが、令和8年1月11日から直売所での販売も始められ、道の駅物産館さんやいくつかの大型店さん、地元の個人店さんにも置かせていただくこともできました。

Q栽培での「こだわり」などがありますか。

A自分で作っているイチゴを毎日必ず食べ、自分の舌で水分バランスや肥料バランスを感じ

ること、できるだけ有機農法に近い栽培をすることは大事な事と考えています。

Q今後どんな展開を考えていますか。

A今現在お取引させていただいているお店に、安定納品することを続けると共に、できればお取引店舗数も増やしたいと考えています。また、ふるさと納税返礼品エントリーの手続きも完了しましたので、イチゴシーズンにはその部分でも展開できることを楽しみにしています。またイチゴ栽培は、ロスの部分も大きな課題と感じていますので、加工品の研究などもしたいと思っています。

Q町や議会に対して、要望などがありますか。

Aコロナ危機・ウクライナ危機・ホルムズ危機の影響が、農業にも圧迫感を与え続けています。そんな不安を、少しでも払拭する施策をお願いできればありがたいと思います。



ふるさと納税の返礼品や加工商品の研究など、これからの展開が楽しみ